

62 巻 10 月・増刊号(62 巻 10 号)予告

感染症関連国際ガイドライン 近年の主なまとめと活用法

●定価：本体 5,000 円＋税

2018 年も「臨床検査」は、臨床検査技師の皆さんに役立つ内容をまとめた増刊号を年に 2 回発行しています。2018 年の秋の増刊号は「感染症関連国際ガイドライン——近年の主なまとめと活用法」をお送りします。

感染症診療にかかわる専門職として、着々と整備が進む国内ガイドラインを学ぶことは、もはや必須といえます。それどころか、国際ガイドラインまで含めた包括的なフォローアップが必要とされる場面が増えていることは、皆さん肌で感じておられることと思います。しかし、国内と海外のガイドラインでどのような差異があるのか、そもそもどのようなガイドラインが存在するのか、それを学ぶ機会が少ないこともまた現状でしょう。

そこで本特集では、2010 年以降に米国・欧州で発表されたガイドラインから主なものを選択し、概要とその活用法を一挙にご紹介します。国内で活用する場合の解釈と注意点、そして標準的な推奨をまとめて読むことができる、便利な 1 冊です！

1 章

ガイドラインの基礎知識

導入として、国際ガイドラインの「作成と質評価」、そして「使い方と注意点」について解説します。

2 章

臨床感染症に関するガイドライン

3 章

臨床微生物に関するガイドライン

4 章

感染予防・制御に関するガイドライン

各ガイドラインは、「臨床感染症」「臨床微生物」「感染予防・制御」に分けて章立てされています。さらに、推奨内容はその性質から①診断、②治療、③フォローアップ、④感染対策、⑤その他に分類してタグ付けしてありますので、各職種に必要なガイドラインが一目瞭然です！

どのようなガイドラインが存在するのかはもちろん、サッと大枠の内容を確認したり、「使用上のアドバイス」を参照して国内ガイドラインと比較したりと、その活用法はさまざま！ 職種、場面、経験問わず幅広く使っていただける 1 冊です。

*特集内容については変更になる可能性があります。